

基 準 編

基準編では、景観計画に基づく色彩の数値基準の内容を解説しています。
建築物等の立地や規模に応じて必要なページを参照し、基準への適合を確認して下さい。

01	景観基本軸の色彩	8
01-1	臨海景観基本軸	8
01-2	河川系景観基本軸	10
01-3	緑地系景観基本軸	12
02	景観形成特別地区の色彩	14
02-1	文化財庭園等景観形成特別地区	14
02-2	水辺景観形成特別地区	16
02-3	小笠原（父島二見港周辺）景観形成特別地区	18
03	一般地域の色彩	20
04	大規模建築物等の色彩	22
04-1	04-2～04-5以外の区域における景観誘導	22
04-2	国会議事堂、迎賓館、絵画館、東京駅丸の内駅舎 の眺望の保全に関する景観誘導	24
04-3	文化財庭園等の眺望の保全に関する景観誘導	26
04-4	水辺からの眺望に配慮した景観誘導	28
04-4	皇居周辺の風格ある景観誘導	30
05	屋外広告物の色彩	32



01-1

景観基本軸の色彩 …臨海景観基本軸

届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
臨海景観基本軸	海域及び海と一体となって景観をつくり出している陸域とする。 なお、内陸の沿岸部については、海上や対岸からの見え方、近接する隅田川景観基本軸との関係などを検討し、水際から50mの陸域及び葛西沖開発土地区画整理事業によって埋め立てられた陸域とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ15m又は延べ面積3,000m ² 以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ15m又は築造面積3,000m ² 以上

色彩景観の現況

●臨海景観基本軸

- ・臨海部を取り囲むように高層の建築物が建ち並び、東京の景観を一望できる優れた立地に、景観に配慮した副都心を形成しつつあります。こうした建築物の色彩は、明るい無彩色や暖色系色相の低彩度色が中心となっています。
- ・東京港最奥部では、隅田川河口へと続く水域を中心に、都市施設と港湾施設が融合した景観を形成しています。また、水域の中心部にはふ頭などの港湾施設が集積しています。港湾施設の中には、航空法で規定された赤白のクレーンなども見られダイナミックな色彩要素となっています。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の基本色は、海や空の色彩と調和した開放感のある景観を形成するために、低明度色の使用は避けるとともに、落ち着いた潤いのある景観を形成するために低彩度の色彩を基本とします。
- ・屋根を設ける場合は、水や空などの色彩がより鮮やかに感じられるよう、彩度を抑えた色彩を用いるものとします。



臨海景観基本軸の現況（港区芝浦からの眺望）

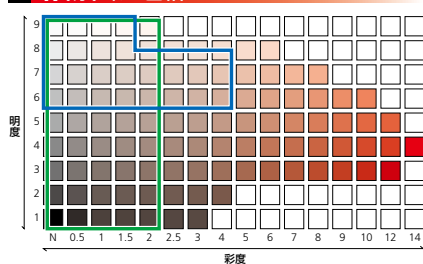


臨海景観基本軸の現況（港区台場周辺）

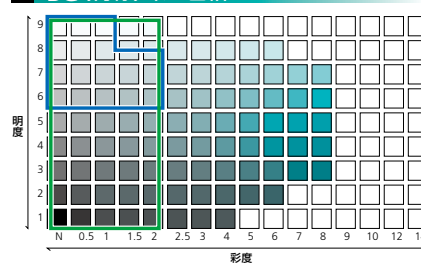
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	6以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR～5.0Y	6以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	2以下
	その他	6以上8.5未満の場合	2以下
		8.5以上の場合	1以下
屋根色	5.0YR～5.0Y	—	4以下
	その他		2以下

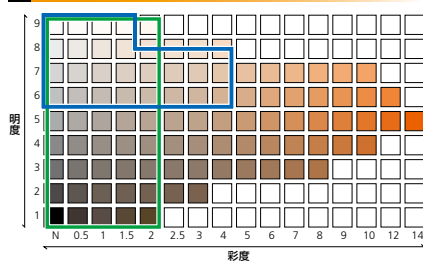
R(赤)系の色相



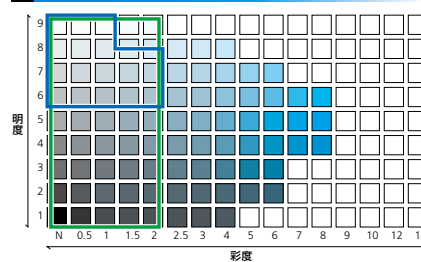
BG(青緑)系の色相



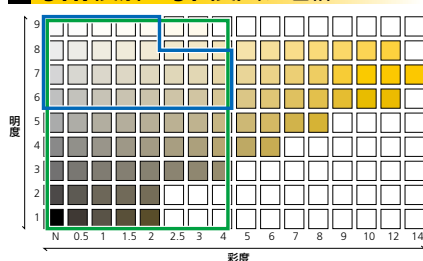
0YR～4.9YR(黄赤)系の色相



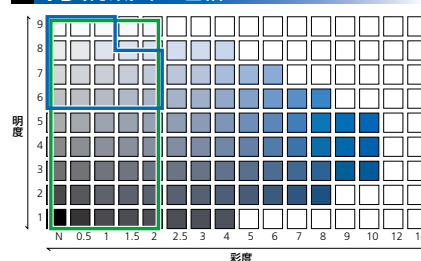
B(青)系の色相



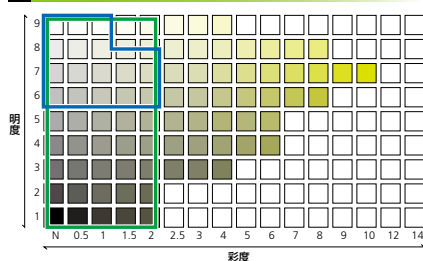
5YR(黄赤)～5Y(黄)系の色相



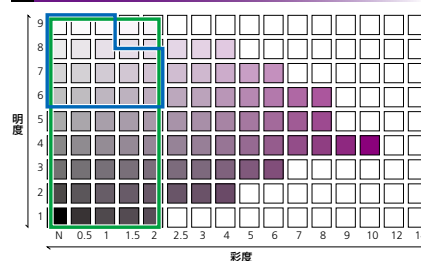
PB(青紫)系の色相



5.1Y(黄)系～GY(黄緑)系の色相



P(紫)系の色相



凡例

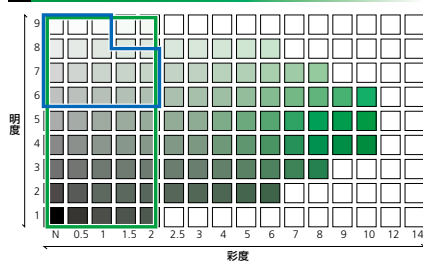


外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)

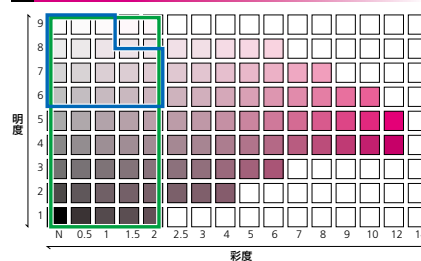


屋根色の使用可能範囲

G(緑)系の色相



RP(赤紫)系の色相



01-2

景観基本軸の色彩 …河川系景観基本軸

届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
隅田川景観基本軸	隅田川の区域及び隅田川の両側からそれぞれ50mの陸上の区域を合わせた部分とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ15m又は延べ面積1,000m ² 以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ15m又は築造面積1,000m ² 以上
神田川景観基本軸	神田川の区域及び神田川の両側からそれぞれ30mの陸上の区域を合わせた部分及び日本橋川とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ15m又は延べ面積1,000m ² 以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ15m又は築造面積1,000m ² 以上

色彩景観の現況

●隅田川景観基本軸

- ・東京湾臨海部から連なる河口部の新しい都市景観と古くからの都市である浅草、蔵前などの下町の景観などで構成されています。
- ・川沿いの建築物は、暖色系色相の低彩度色を基調としたものが主体ですが、一部にはやや色味の強い赤系や青系の建築物も立地しており、周囲からやや突出して見える存在となっています。

●神田川景観基本軸

- ・隅田川との合流点付近など下流部では沿岸に隙間なく建築物が建ち並び景観となっており、多様な規模・年代の建築物が混在していますが、ほとんどの建築物が暖色系の色相を基本としています。
- ・中、上流部は住宅地の間を流れており、緑地帯や遊歩道の整備が進んでいます。川沿いの建築物は、戸建て住宅を中心とする住居系が主体となることから、暖色系色相の中・低彩度色が基本となっています。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の基本色は、隅田川の水面や神田川沿岸の緑が映え周囲の街並みと調和する低彩度の色彩とし、暖色系の色相を基本とします。
- ・屋根を設ける場合は、周囲の街並みから突出しないよう明度や彩度を抑えた色彩を用いることとします。



隅田川景観基本軸の現況（中央区勝どき橋からの眺望）

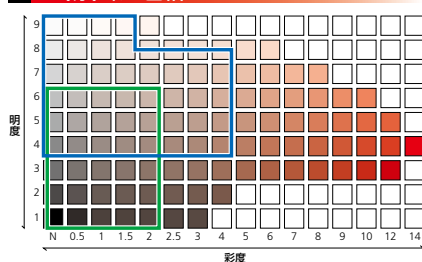


神田川景観基本軸の現況（杉並区久我山周辺）

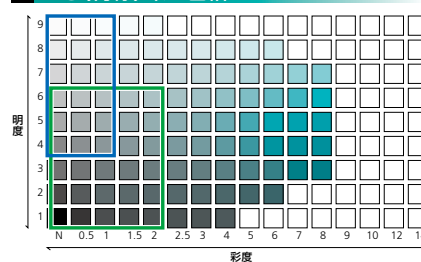
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	4以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	2以下
	その他	4以上8.5未満の場合	1以下
		8.5以上の場合	1以下
屋根色	5.0YR～5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

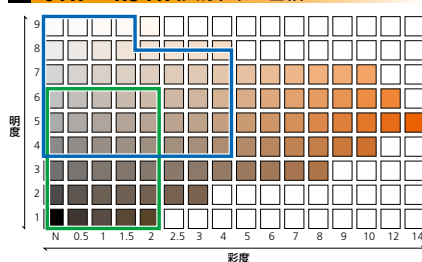
R(赤)系の色相



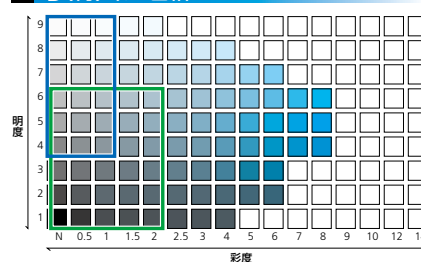
BG(青緑)系の色相



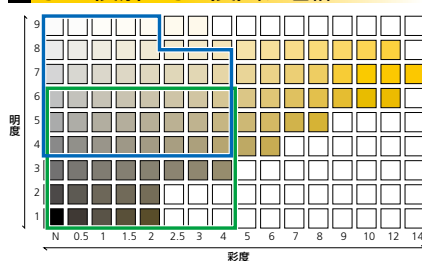
0YR～4.9YR(黄赤)系の色相



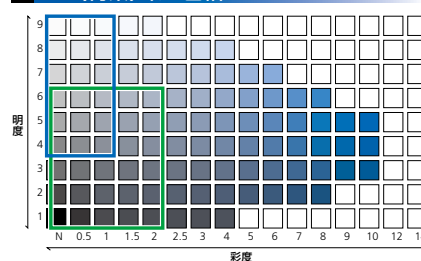
B(青)系の色相



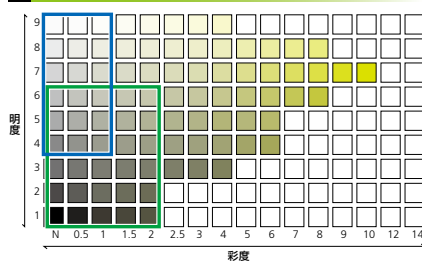
5YR(黄赤)～5Y(黄)系の色相



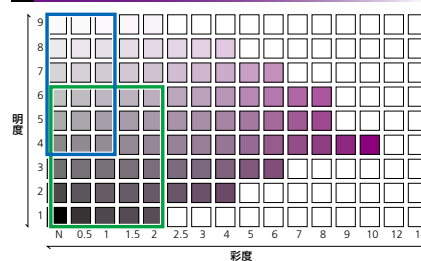
PB(青紫)系の色相



5.1Y(黄)系～GY(黄緑)系の色相



P(紫)系の色相



凡例

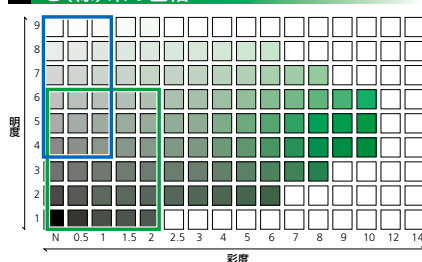


外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)

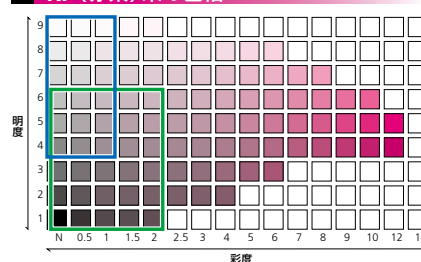


屋根色の使用可能範囲

G(緑)系の色相



RP(赤紫)系の色相



01-3

景観基本軸の色彩 …緑地系景観基本軸

届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
玉川上水景観基本軸	玉川上水の中心から両側それぞれ100mの区域とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ10m以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ10m以上
国分寺崖線景観基本軸	国分寺崖線及び国分寺崖線と一体となつて景観をつくり出している地域で、国分寺崖線の低地側においては、崖線と低地との境界部からおおむね360mまでの範囲、台地側においては、崖線と台地との境界部からおおむね80mまでの範囲とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ10m又は延べ面積1,000m ² 以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ10m又は築造面積1,000m ² 以上
丘陵地景観基本軸	丘陵地の山裾からおおむね500mまでの区域とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ10m以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ10m以上

色彩景観の現況

●玉川上水景観基本軸

- ・玉川上水とその両側の街路樹や庭木など、連続的な緑の中に戸建て住宅や併用住宅、集合住宅が立地しています。建築物の意匠や規模は多様ですが、色彩については暖色系色相の低彩度色が中心です。

●国分寺崖線景観基本軸

- ・野川の段丘崖が断続的に連なり、起伏のある緑を背景とした住宅地が形成されているほか、崖線近くには古くからの農家なども点在しています。色彩については、全般に暖色系色相の低彩度色が基本となっていますが、白い箱形の建築物など、崖線の緑から突出している例も見られます。

●丘陵地崖線景観基本軸

- ・丘陵を背景とした谷戸地に、戸建て住宅や集合住宅など建築物が立地しています。色彩についてはおおむね穏やかな色調を基本としており、特に明るさや鮮やかさを抑えた屋根の色彩が自然と融和する景観をつくり出しています。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の基本色は、背景や前景となる上水や丘陵の緑にとけ込み、周囲の街並みに違和感なく調和する低彩度の色彩とし、暖色系の色相を基本とします。また、自然の緑との対比が極端に強い明るい色調は避けることとします。
- ・屋根の色彩は、周囲の自然や街並みから突出しないよう、明度や彩度を抑えた色彩を用いることとします。



玉川上水景観基本軸の現況（三鷹市井の頭周辺）



国分寺崖線景観基本軸の現況（狛江市東野川周辺）

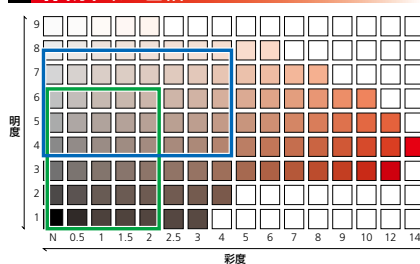


丘陵地景観基本軸の現況（日野市平山周辺）

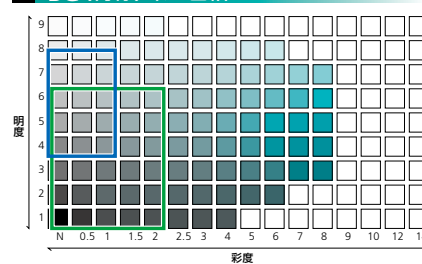
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～5.0Y	4以上8.5未満	4以下
	その他		1以下
屋根色	5.0YR～5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

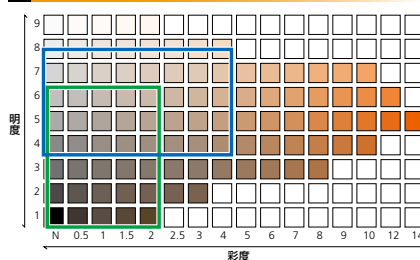
R(赤)系の色相



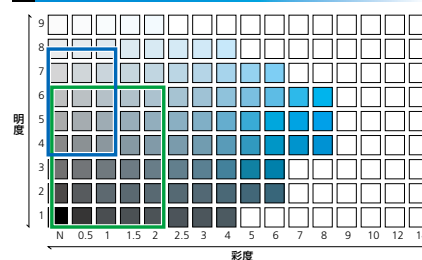
BG(青緑)系の色相



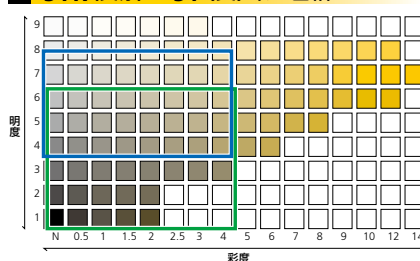
0YR～4.9YR(黄赤)系の色相



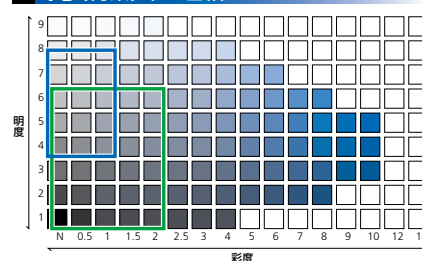
B(青)系の色相



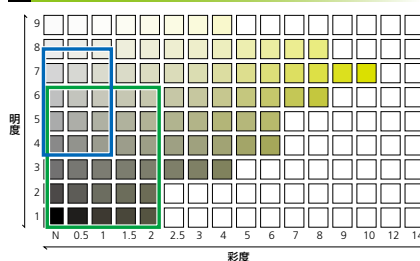
5YR(黄赤)～5Y(黄)系の色相



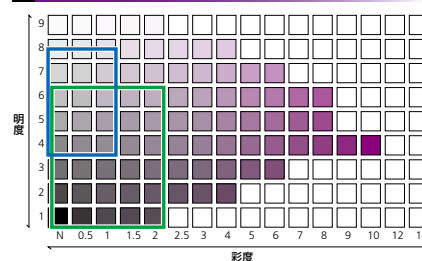
PB(青紫)系の色相



5.1Y(黄)系～GY(黄緑)系の色相



P(紫)系の色相



凡例

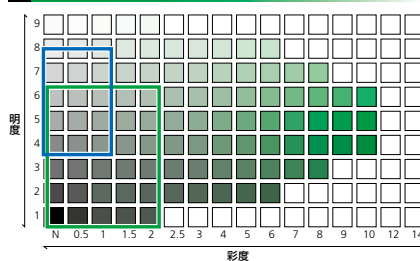


外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)

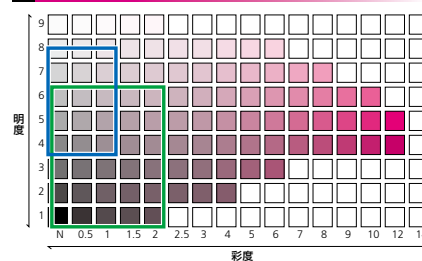


屋根色の使用可能範囲

G(緑)系の色相



RP(赤紫)系の色相



届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
文化財庭園等 景観形成特別地区	景観形成特別地区に指定された文化財庭園等の外周線からおおむね100mから300mの範囲とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ20m以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	高さ20m以上

保全対象庭園の色彩

●文化財庭園等景観形成特別地区

- ・文化財庭園は、国や都から名勝、国民公園、重要文化財等の指定を受けており、市街地との境界部には、豊かな緑を配しています。
- ・これらの緑は、樹種等によって少しずつ色彩が異なり、常緑樹よりも落葉樹の方が色調が明るく鮮やかで、季節変動の幅も大きくなります。なお、緑の色彩が安定する夏季の広葉樹の緑の彩度は6程度になります。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁の大部分については、各庭園の豊かな緑をいかした景観の形成を図るため、庭園の緑の彩度程度を上限とします。
- ・勾配屋根を設ける場合は、庭園の緑から突出しないよう明度や彩度を抑えた色彩を用いることとします。
- ・色彩計画にあたっては、建築物全体及び隣接する建築物等との形態のバランスを検討し、特に庭園景観の背景としてふさわしい落ち着いた意匠とする必要があります。また、長大な壁面を生じさせないようにし、壁面を分割するなど、庭園からの眺望に対して、圧迫感を感じさせないようにするなどの配慮も必要です。



浜離宮恩賜庭園周辺の現況（中央区築地周辺）



旧芝離宮恩賜庭園周辺の現況（港区浜松町周辺）

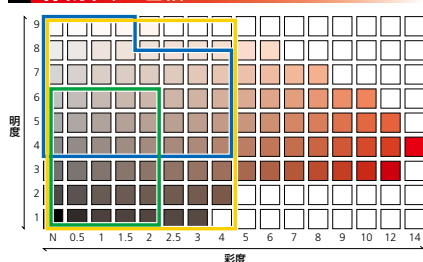


新宿御苑周辺の現況（新宿区富久町周辺）

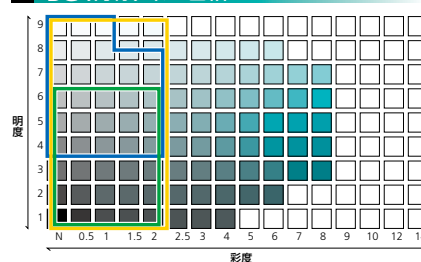
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	4以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR～5.0Y	4以上8.5未満の場合	6以下
		8.5以上の場合	2以下
	その他	4以上8.5未満の場合	2以下
		8.5以上の場合	1以下
強調色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色（勾配屋根）	5.0YR～5.0Y	6以下	4以下
	その他		2以下

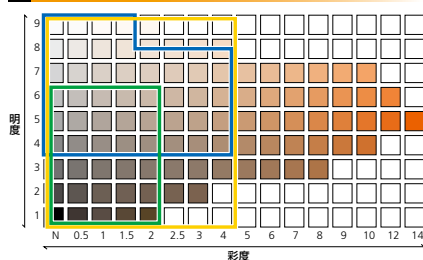
R（赤）系の色相



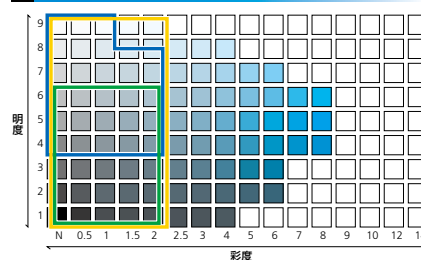
BG（青緑）系の色相



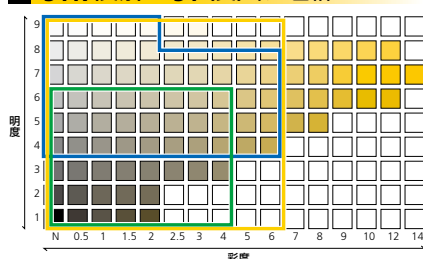
0YR～4.9YR（黄赤）系の色相



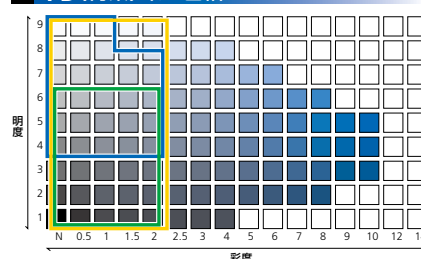
B（青）系の色相



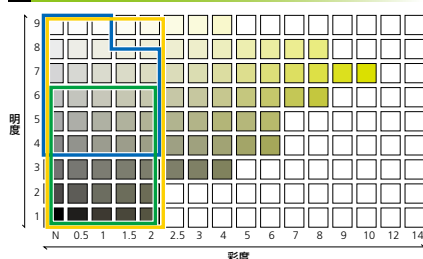
5YR（黄赤）～5Y（黄）系の色相



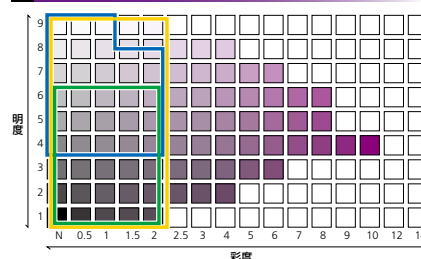
PB（青紫）系の色相



5.1Y（黄）系～GY（黄緑）系の色相



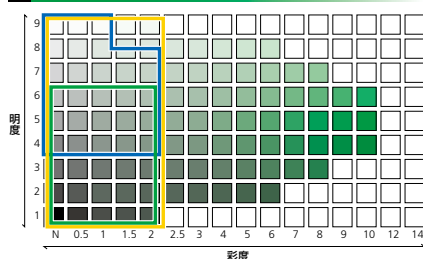
P（紫）系の色相



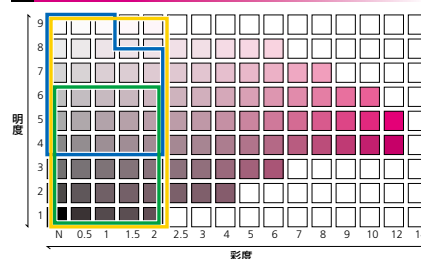
凡例

- 外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の使用可能範囲

G（緑）系の色相



RP（赤紫）系の色相



届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
水辺景観形成特別地区	観光スポットや運河ルネッサンス推進地区を結ぶ水上バスの主要ルート、都市再生緊急整備地域の指定を受け土地利用転換が進められている東京臨海地域などを含み、水辺の魅力を世界に発信していく上で、特に重要な区域とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	水域に面するもので高さ15m以上 (臨海景観基本軸の区域は、高さ15m 又は延べ面積3,000m ² 以上) (隅田川景観基本軸の区域は、高さ15 m又は延べ面積1,000m ² 以上)
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	水域に面するもので高さ15m以上 (臨海景観基本軸の区域は、高さ15m 又は築造面積3,000m ² 以上) (隅田川景観基本軸の区域は、高さ15 m又は築造面積1,000m ² 以上)

色彩景観の現況

●水辺景観形成特別地区

- ・本地区は海や運河などの水域により、豊かな水辺の空間が形成されており、水辺をいかした観光まちづくりが推進されています。
- ・台場や有明周辺の商業・業務ビルは、明るい低彩度色を基調としたものが多く、水辺の景観にふさわしい広がりを感じさせる開放的な雰囲気を出しています。本地区には倉庫等の港湾施設もみられ、一部に派手な色彩も見られますが、全般には明るく穏やかな色使いが基本となっています。

色彩景観形成の考え方

- ・外壁については、水際や水上からの視点に配慮し、水や緑の色彩が映える潤いのある景観を形成するため、中彩度・低彩度の色彩を基本とします。
- ・また、基本色については明るく開放的な景観を阻害しないよう低明度色の使用を規制します。(東京港の海水面の平均的な明度が6程度です。)
- ・勾配屋根を設ける場合は、水や空などの色彩がより鮮やかに感じられるよう、彩度を抑えた色彩を用いることとします。



水辺景観形成特別地区の現況（中央区晴海・江東区豊洲周辺）

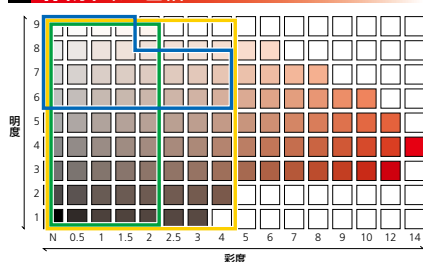


水辺景観形成特別地区の現況（レインボーブリッジと周辺の街並み）

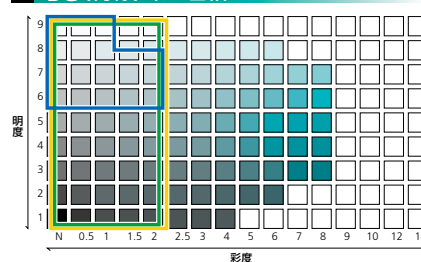
色彩基準による使用可能色の範囲

基準の適用部位・面積	色相	明度	彩度
外壁基本色	0R～4.9YR	6以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	1.5以下
	5.0YR～5.0Y	6以上8.5未満の場合	4以下
		8.5以上の場合	2以下
	その他	6以上8.5未満の場合	2以下
		8.5以上の場合	1以下
強調色	0R～4.9YR	—	4以下
	5.0YR～5.0Y		6以下
	その他		2以下
屋根色（勾配屋根）	5.0YR～5.0Y	—	4以下
	その他		2以下

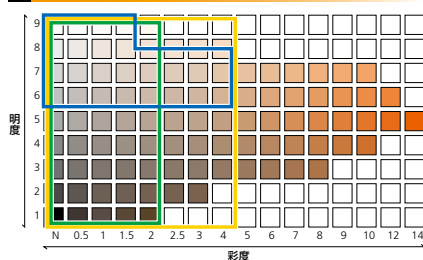
R（赤）系の色相



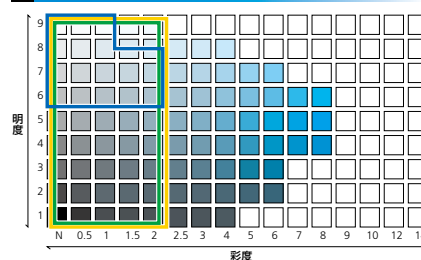
BG（青緑）系の色相



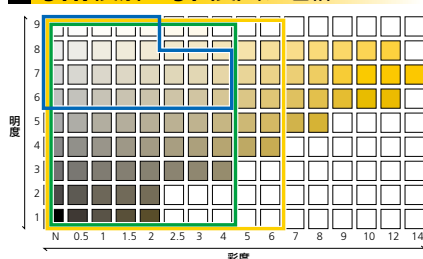
0YR～4.9YR（黄赤）系の色相



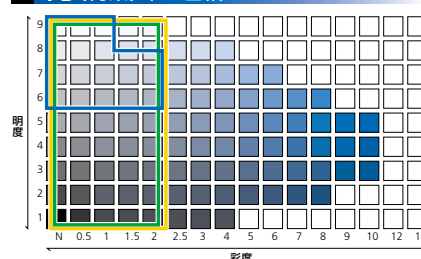
B（青）系の色相



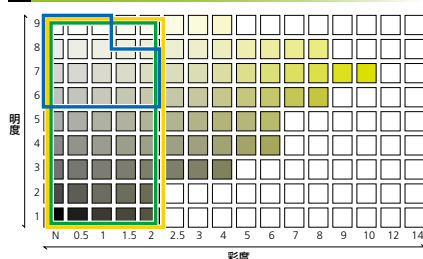
5YR（黄赤）～5Y（黄）系の色相



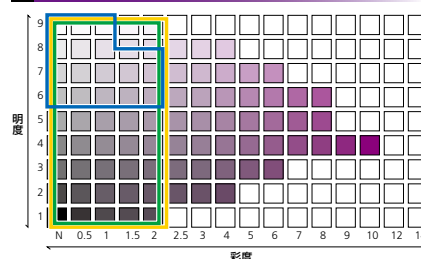
PB（青紫）系の色相



5.1Y（黄）系～GY（黄緑）系の色相



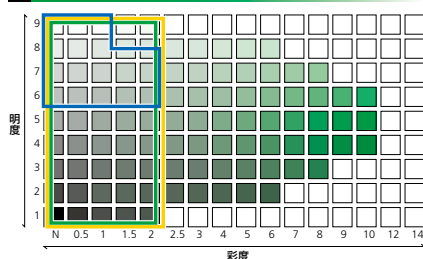
P（紫）系の色相



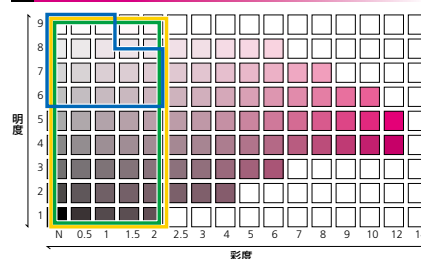
凡例

- 外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
- 外壁強調色の使用可能範囲
(外壁の1/5以下で使用可能)
- 屋根色の使用可能範囲

G（緑）系の色相



RP（赤紫）系の色相



景観形成特別地区の色彩

…小笠原（父島二見港周辺）景観形成特別地区

届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
小笠原（父島二見港周辺）景観形成特別地区	小笠原諸島の玄関口となる父島二見港周辺に広がる大根山、西町、東町、宮之浜道、清瀬、奥村及び屏風谷地区のうち、自然公園法による国立公園区域（普通地域を除く。）、森林法による保安林及び保護林制度による小笠原諸島森林生態系保護地域を除く区域とする。	建築物の建築等 （新築・増築・改築・移転・外観の変更 〔修繕・模様替・色彩変更〕）	地階を除く階数 ≥ 3 又は延べ面積 $\geq 300\text{ m}^2$
		工作物の建設等 （新設・増築・改築・移転・外観の変更 〔修繕・模様替・色彩変更〕）	煙突その他これに類するもの：高さ $> 6\text{ m}$ 鉄柱その他これに類するもの：高さ $> 15\text{ m}$ 物見塔その他これに類するもの：高さ $> 4\text{ m}$ 昇降機、ウォーターシュート、コースターその他これらに類するもの：高さ $> 8\text{ m}$ 製造施設、貯蔵施設、遊戯施設、自動車車庫：高さ $> 10\text{ m}$ 橋梁その他これに類する工作物で河川などを横断するもの：すべて

色彩景観の現況

●小笠原（父島二見港周辺）景観形成特別地区

- ・二見港の目前に広がる街並みのすぐ後ろに植物の生い茂る緑の山々が迫り、その上に広がる透き通った空や、周囲の紺碧の海とがあいまって、他の地域には見られない、小笠原らしい景観を形成しています。
- ・集落内には、返還後に建設された官公庁施設、公営住宅、民宿等とともに、島の原風景を伝えるビロウ葺きの施設、異国的な低層住宅や教会が点在し、戦前、米軍統治期、返還後から今日に至る様々な時代に形成された風景が見られます。

色彩景観形成の考え方

- ・空や海の深い青み、森林の豊かな緑と調和した、年間を通じて温暖な亜熱帯の島を印象付ける景観を形成するため、建築物等の色彩は小笠原の樹木や草花と調和した色使いを基本とします。
- ・港隣接ゾーンでは、港周辺の雰囲気や観光地の賑わいを創出するため、小笠原二見港周辺のイメージとなっている白を外壁基本色の基調とします。特に珊瑚の砂浜に近い色彩を推奨します。
- ・山沿いゾーンでは、背景の緑と調和し、小笠原特有の素材であるロース石の色彩を外壁基本色の基調とします。
- ・屋根については、背景の山並みと調和するよう、明るさや鮮やかさを抑えた色彩とし、かつての街並みに見られ、今も点在する小笠原ビロウ葺きの色を基調とします。



父島二見港周辺の海岸線



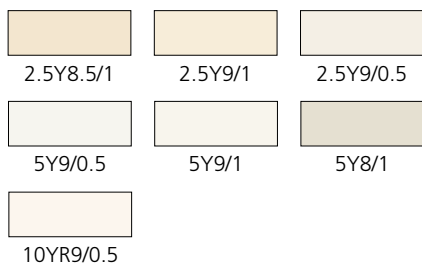
父島二見港の岸壁と周辺の建築物

色彩基準による使用可能色の範囲

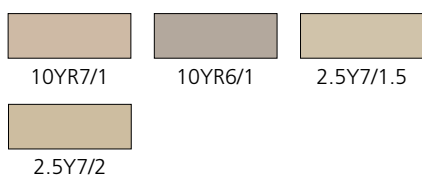
行為	基準の適用部位・面積	ゾーン	色相	明度	彩度
建築物の建築等	外壁基本色	港隣接ゾーン	5.0YR～5.0Y	7以上	2以下
		その他			1以下
		山沿いゾーン	5.0YR～5.0Y	5以上8以下	3以下
	外壁基本色（推奨色）	その他			1以下
		港隣接山沿い	10YR～5.0Y	8以上	1以下
工作物の建設等	屋根色		5.0YR～5.0Y	6以下	4以下
	その他				2以下
	屋根色（推奨色）		5.0YR～5.0Y	3.5以上6以下	2以下
工作物の建設等	基本色		5.0YR～5.0Y	2以上8.5以下	2以下

●外壁基本色の推奨例

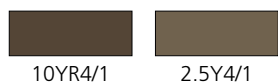
港隣接ゾーン



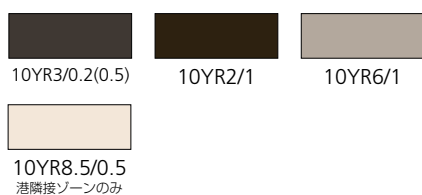
山沿いゾーン（ロース石の色）



●屋根色の推奨例



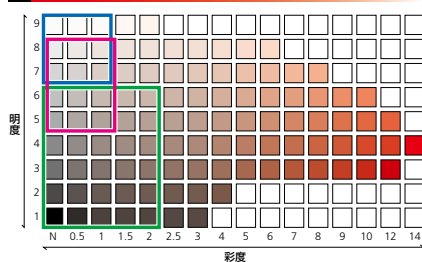
●工作物基本色の推奨例



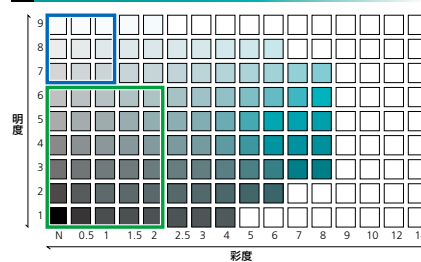
凡例

- 港隣接ゾーン
外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
- 山沿いゾーン
外壁基本色の使用可能範囲
(外壁の4/5はこの範囲から選択)
- 屋根色の使用可能範囲
- 工作物基本色の使用可能範囲
(外装の4/5はこの範囲から選択)

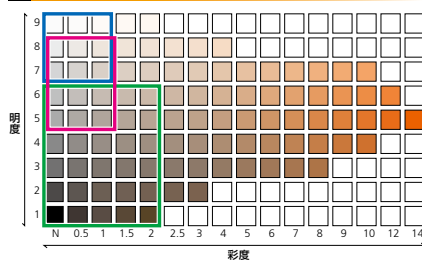
R (赤) 系の色相



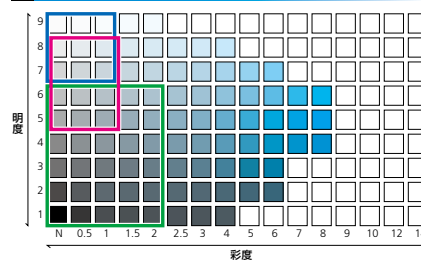
BG (青緑) 系の色相



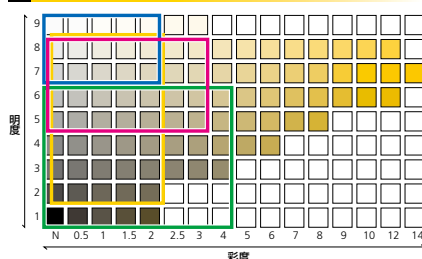
0YR～4.9YR (黄赤) 系の色相



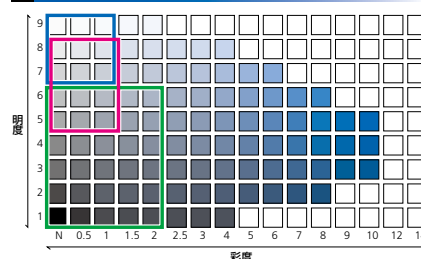
B (青) 系の色相



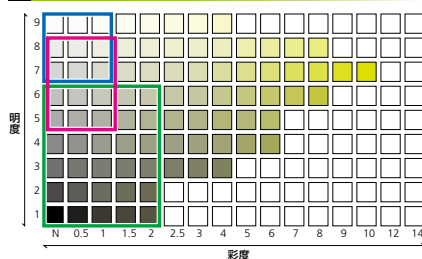
5YR (黄赤)～5Y (黄) 系の色相



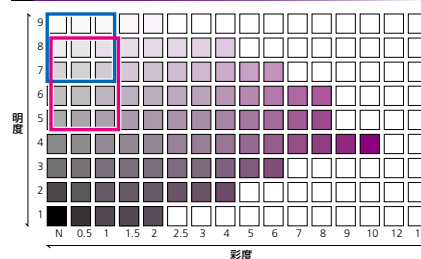
PB (青紫) 系の色相



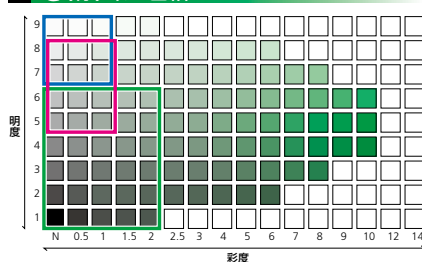
5.1Y (黄) 系～GY (黄緑) 系の色相



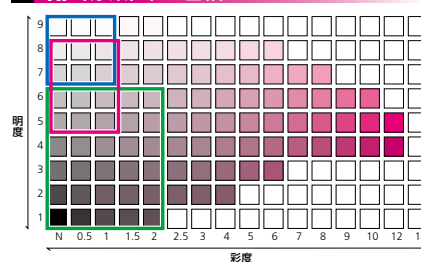
P (紫) 系の色相



G (緑) 系の色相



RP (赤紫) 系の色相



届出対象

区域名称	区域の範囲	届出行為	届出規模
一般地域	景観計画区域のうち、景観基本軸及び景観形成特別地区以外の地域を一般地域とする。	建築物の建築等 (新築・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	特別区 高さ60m又は延べ面積30,000m ² 以上 市町村 高さ45m又は延べ面積15,000m ² 以上
		工作物の建設等 (新設・増築・改築・移転・外観の変更 [修繕・模様替・色彩変更])	特別区 高さ60m又は築造面積30,000m ² 以上 市町村 高さ45m又は築造面積15,000m ² 以上

色彩景観の現況

●一般地域

- ・一般地域は、都全域が対象であり、都心部の商業・業務景観から、多摩地域の丘陵部まで多様に立地する高層建築物は、その場所や地区ごとの様々な特徴的な景観をつくり出しています。
- ・特別区や多摩地域の生活拠点となる駅周辺の市街地では、暖色系色相を中心とした中・低彩度の色彩景観が基本となっています。
- ・多摩地域の郊外を中心としたエリアでは、緑の丘陵を背景に建築物が点在する景観が見られます。こうした場所では、緑との調和を考慮した穏やかな色使いが基本になっています。

色彩景観形成の考え方

- ・計画にあたっては、地域の景観特性を把握し、周辺の街並みや自然との調和を考慮した色彩を基本とします。
- ・外壁については、落ち着きが感じられ、水や緑などの存在や周辺の街並み景観を妨げないように配慮し、中彩度までの色彩を基本とします。
- ・外壁のアクセントとして用いる色彩について、その面積は外壁各面の5%以下とし、主に建物中低層部で用いるようにして下さい。



街並みの現況例（中央区日本橋室町周辺）



街並みの現況例（武蔵野市境南町周辺）